

Blackboard@Tamagawa 活用事例

01

経営学部国際経営学科教授： 飯野峻尾先生

MyPC を携帯する学生が学ぶ経営学部特別研究（ゼミ）での活用

専門は経営学、特に貢献主義人的資源管理の研究です。経営学部は2001年学部創設時から学習支援システムを導入し、学生は各自 MyPC を携帯できる環境で、今春第一期生が卒業しました。飯野先生は授業中に MyPC 携帯は必要に応じて最低限にし、対面授業を進められています。そして、対面授業以外の時間に Blackboard を含め、ICT を十分に活用した様々な学習機会を学生に提供されています。タイムリーに出される、学生に呼びかけるようなアナウンスには先生のお人柄が反映されており、学生に好評です。また、課題指示・提出・返却に Blackboard @ Tamagawa を使い、提出課題には必ずコメントをつけて全課題を返却されています。今回は特に特別研究（ゼミ）での活用を中心にご紹介いただきます。



科目の実施規模と Blackboard の活用

科目の実施規模と Blackboard の活用

- ◆ 科目名：特別研究Ⅰ 3年生 12名
特別研究Ⅲ 4年生 16名
- ◆ 授業の概要：科目は Semester ごとではあるが、2年間特別研究Ⅰ～Ⅳ（ゼミ）受講学生メンバーは変わらずに受講。講義では、人件費を理解、人件費分析手法の習得、事例調査分析を通して人件費のポイントや運用課題などを段階的に学び、最終的に卒業報告書としてまとめる。
- ◆ Blackboard の活用：授業で使用する講義資料の掲載、ディスカッションボードの活用、課題指示・課題シートのダウンロードなど。

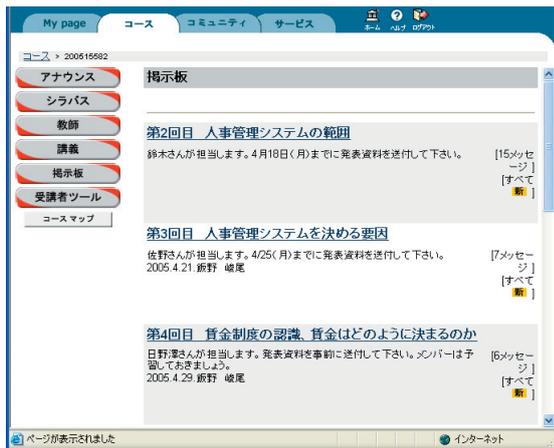
「学生は授業前までに資料をディカッションボードに本人が掲載。メンバーは各々で授業前までに閲覧、質問・問題意識をもって、授業に参加する。授業で発表、討議、指導し、授業後はディスカッションボードにメンバーからのコ

メントが投稿される」というローテーションで展開される。参加している学生は、募集の要件である「必要な前提科目を履修し、パソコン操作堪能者、自主性、創造性および行動力がある者」との下に希望した学生たちで構成されている。

特別研究ならではの Blackboard の活用

学生たちの自主性を引き出すために【授業と授業をつなぐブリッジ】として活用している。特にディスカッションボードでの担当学生の発表は授業中にとどまらない。たとえばゼミで本を書くという目標があるが、学生からの申し出をうけ、ファイルの共有や連絡のためのフォーラムも開いている。個別のゼミのホームページを開くという方法もあるかもしれないが、Blackboard を活用することでその機能は十分活用できていると思う。また、Blackboard によって、パソコンが使えるかどうかではなく、

コミュニケーションの選択肢が増えたと考えている。もちろん取り上げている学問領域が計数を使うのでパソコンは必須なのだが、堪能な学生を中心に互いに教え合い、さらに使いこなしている。eラーニングを「高度な授業で・・・」とがんばるよりも、身近で工夫をしてたくさん使っている、という感じ。



特別研究Ⅲディスカッションボード

講義の資料を掲載することについて

教員によっては論議が分かれるけれど、私は事前に必ず講義資料を掲載する。学生によってはそれをダウンロードしてノートを作る者もいれば、あとで復習に活用にする者もいるし、欠席者は当然活用している。そうすることによって、学生の予習に提供できるし、教材にまつわる雑件から教員自身も解放される。「ノートをとらなくなる」といわれる人もいるが、講義ノートを掲載したから、「授業を聞かない」ということもないし、学習度

合いが下がるということを経験的にはない。

操作機会が多いと

学生は ICT を活用するノウハウをあっという間に身に着けていく。別の科目で1年生の必修科目「経営学」では1年生の春セメから毎回の授業でサマリーを作らせ提出を義務づけている。ちょっと大変かもしれないけれど、入学直後でわけがわからない学生でも数回で充分よいものをまとめられるようになる。もちろん40人が提出してくる毎回のサマリーはすべて読み、コメントをBlackboardから個別に返却している。未提出者へ「まだ提出されていなかったぞ」と注意し、内容的にモデルになる提出があったときは「よかったこと」を必ず教室でも紹介するようにしている。

今後の経営学部の ICT 活用について

学生にとってはパソコンをつかう温度差はあまりないと思う。彼らは適応が早いから、使う機会があればすぐに適応していく。科目の特質から活用方法は違うけれども、パソコンや操作を学ぶことが目的ではなく、パソコンをどう使うか・使えるかを体感してほしい。意識的に道具として活用し、機会が増加すれば体得していくし、学びに大学に来ているのだから、大いに学ばばいい。インターンシップの募集などの科目外でもすでに活用している。さらに、活用機会を増やしていきたい。



Blackboard@Tamagawa

第3回学内カンファレンスのお知らせ

今年度第1回学内カンファレンスを以下のとおり開催します。Blackboard@Tamagawaの活用事例の報告を中心に、情報交換・議論の場にしたいと思います。ぜひ、ご参加ください。

- ◆ 日時：2005年7月27日(水) 13時30分～15時30分
- ◆ 場所：視聴覚センター 104教室

発表事例などの詳細は、後日eメールなどでご連絡します。

私立大学情報教育協会

03 「大学等電子著作物権利処理事業」について

全国の345大学が加盟する社団法人私立大学情報教育協会（以下、私情協）がインターネットによる著作権処理事業を開設しました。今回は事業の内容を簡単にご紹介します。

◆事業の目的：

(1) デジタル化されたeラーニング教材など教育研究に用いるコンテンツ（電子著作物）について、大学間での相互利用を促進するために、必要な著作権処理の代行を行う。

(2) 企業等と大学間での交渉便宜をはかるため、権利者情報、利用許諾情報の提供を行う。

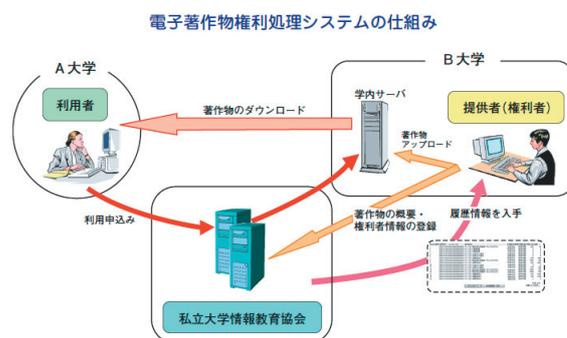
◆事業の実施方法：

(1) 私情協が提供するシステム（専用サーバ）にコンテンツの権利者（加盟大学・教職員）が教材等のファイルを登録し必要な著作権情報を入力する。

(2) 利用者（加盟大学教職員）はインターネットを介してコンテンツ利用申込、ダウンロードを行う。

(3) コンテンツの権利者は登録したコンテンツの利用状況をWebページ上で確認できる。

(4) 著作権使用料は、年2回、大学単位で清算され大学内で分配される。



私情協「インターネットによる著作権処理の実施について」より

私情協 Web サイト：<http://juce.shijokyo.or.jp/crdb/index.htm>

◆事業の進捗：

2004年10月 システム稼働開始。本学を含め37大学が参加申込、95大学が参加予定

2005年4月 私情協が加盟大学の教員対象にアンケートを実施

2005年7月 システム・運用の改善を予定

◆今後の見通し：

今後、私情協からの情報など改めてご連絡いたしますので、その折ご利用ください。

◆お問い合わせ先：メディア教育推進室 大野（内線8819）

04

Blackboard Tips 【表示エリアの設定】

コースで使用する機能にあわせて、表示されている表示ボタンを変更できます。ボタン表示は該当コースの「コントロールパネル→コースの設定→表示エリアの設定」で表示を変更できます。デジタルドロップボックスを使用して課題を提出させるには、受講者ツールボタンの表示と、デジタルドロップボックスを「有効」にする必要があります。

詳しい操作については、Blackboard@Tamagawaの参加中のコース「100010006 インストラクターマニュアルコース」の「6. コースを作りこむ」フォルダに説明ビデオがございます。ご活用ください。



メディア教育推進室

05 ビデオ編集機材のご紹介

Blackboard@Tamagawa の普及と教室 AV 機器が整備されたことにより、ビデオ教材の活用が増えてきました。より学習効果の高い、ビデオ教材を作成するために、先生方ご自身で簡単に操作できるビデオ編集システム、ダビングシステムを導入しました。ビデオ素材の編集、効果的な教材作成に、是非、ご活用ください。

◆どこにあるの？いつでも使えるの？

【場所】視聴覚センター棟 205 (メディア教育推進室)

【利用時間】月～金 8:30 - 17:00 ※祝休日を除く
ご利用にあたっては、必ず予約を入れてください。

◆どんなことが出来るの？

EDIROL (Roland)

簡単な操作でデジタルビデオ編集が自分でできる。

DV テープ

DV テープ
DVD

直感的な操作で、編集・タイトル作成・音声処理が可能。DV テープ最長取り込みは 130 分まで。

ビデオ編集・ダビングは、著作権法の範囲内で行ってください。

マトリックスダビングシステム

マトリックススイッチャー (任意のメディアから任意のメディアへダビングが可能な装置) を利用し、入力メディア・出力メディアを指定し、ダビングができます。

◆利用可能なメディア

映像	DVD,DVCAM,DV VHS,S-VHS,VHS(PAL・SECAM) Hi8, β (ベータ)
音声	CD (録音不可 再生のみ),MD,DAT, カセットテープ



ネットワーク配信のためのストリーミングサーバーがあります。ストリーミングビデオやご紹介した機器をご利用になる場合には、お気軽にお尋ねください。

編集後記

Blackboard@Tamagawa は学内で活用が広がり 2005 年春セメでは現在 686 コースが稼働しています。今回から活用事例の紹介と” Blackboard Tips” を掲載しました。教材作成のご相談・操作のご案内など遠慮なくお申し出ください。e-Education の最新情報は、右記のホームページでも随時掲載していきます。こちらもぜひご覧ください。

e-Education NewsLetter 2005 Vol.2
2005 年 7 月発行

玉川学園・玉川大学
情報システムメディアセンター メディア教育推進室
東京都町田市玉川学園 6-1-1
Tel : 042-739-8820
Fax : 042-739-8825
e メール : dlhelp@tamagawa.ac.jp
URL : <http://blog.tamagawa.ac.jp/e-education/>